

2-6-9 戌山城址主郭部（後の天守閣にあたる）

ここは、戌山城の主郭にあたる。

周囲には、郭・土橋・堀切・塹堀（畝状塹堀）などが確認でき、中世山城の貴重な遺構を残している。またこれより北西・北東・南東の尾根にも、城をより強固なものにするため構築されたと考えられる郭や堀切などがみられる。

戌山城は、室町時代に幕府の重臣（管領）であった斯波氏の一族、斯波義種によって築かれた。その後、斯波氏の内紛を機に朝倉氏の居城となってからも、越前美濃国境の守りの要として重視されていたようだ。

朝倉氏が信長の軍に敗れた後は、織田軍の部将金森長近は一度はこの城に入ったが、龜山山頂に天守閣のある城を築き移ったのを機に廃城となった。

歴代戌山城城主

斯波伊予守義種　大野左衛門佐満種　大野修理大夫持種　大野修理大夫善鏡

斯波家臣千福中務大輔　朝倉下野守経景　朝倉与三左衛門景職

朝倉孫八郎尹景　金森五郎八長近

平成 12 年 3 月

大野市教育委員会

説明板より